

【目次】

1. アーカイブ No.22

連載「日本労働会館物語」第 19 回 2010.11.15 発行の第 21 号に掲載
＜神田青年会館—ジョサイア・コンドルその 2＞

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.22

連載「日本労働会館物語」第 19 回 2010.11.15 発行の第 21 号に掲載
連載 「日本労働会館物語」第 19 回！

＜神田青年会館—ジョサイア・コンドルその 2＞

「日本近代建築の父」とも「丸の内レンガ街をつくった男」とも呼ばれるジョサイア・コンドルは、1894(明治 27)年に惟一館、東京基督教青年会館(神田青年会館)、三菱一号館を竣工させています。

この 3 つの建物はどれも戦災、震災、老朽化などで失われています。しかし、1945 年に東京山の手大空襲で失われた惟一館は現在、新友愛会館として建設中ですし、東京・神田美土代町の東京基督教青年会館は 1923 年の関東大震災で被害を受けた後に再建され、現在は東京・江東区に移転しています。また、東京丸の内の赤レンガ街にあった三菱一号館は 1968 年に老朽化のため解体されましたが、2009 年春に昔の姿で再建され、今は三菱一号館美術館となっています。

コンドルの設計による神田青年会館の献堂式は、1894(明治 27)年 5 月 5 日に行われました。『東京基督教青年会 100 年史』(齊藤実著)によると当時、神田美土代町あたりは小川町低地と呼ばれ、市民の居住には好適な土地ではなかったようです。しかし、そのぶん地価も安く、広い敷地を要する学校と病院が集まっており、「青年の蝸集する町」とされていました。また、当時の交通の要所万世橋にも近く、神田青年会館は適地を得たとされています。



「神田の青年館」と親しまれた東京基督教青年会館は、電燈を設備した最新の大講堂を持っていましたので、労働組合などの集会所として広く利用されました。このため「演説会や大集会の神田青年会館」と呼ばれることとなります(前掲書)。

日本労働運動の嚆矢とされる 1897(明治 30)年の労働組合期成会も度々、神田青年会館で演説会を開催しています。第一回演説会は期成会発足直後の 1897

年 7 月 18 日。その後、10 日に 1 回のペースで演説会、談話会を開いていますが、神田青年会館はその重要な拠点でした。なお、労働組合期成会を日本最初の労働組合という人もいますが、実際は「労働組合の成立を期する会、労働組合に関する宣伝啓蒙団体」(『高野房太郎とその時代』・二村一夫著)でした。

神田青年会館では「日本最初の近代的労働組合」とされる鉄工組合(1897年)も発会式を開いており、ここはその意味で日本労働運動、社会運動のゆかりの地、場所とされています。

1923年9月1日昼頃、関東地方を大震災が襲い、神田青年会館は破壊され、続く火災で午後6時頃に焼失しました。東京キリスト教青年会は翌年から会館建設に着手し、1929年に竣工させます。地下1階、地上6階、屋上の7階に礼拝堂を持つ鉄骨鉄筋コンクリート造りの設計は、曾根中條建築事務所。ここで曾根とはコンドルの弟子、曾根達蔵です。

関東大震災ではコンドルが設計した訓盲院、旧帝室博物館、東京大学法文科教室、岩崎彌之助邸なども失われています。惟一館も被害を受けましたが、建物が失われることはありませんでした。惟一館が焼失したのは1945年5月23日の東京山の手大空襲によります。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

惟一館から 130 年、友愛会から 112 年
